

発行所  
医療法人財団五省会西能病院  
〒930 富山市五福1130  
TEL (0764) 41-2481(代)  
発行人 西能 正一郎

# 五省会ニュース

五省  
一 至誠は悔るなりしか  
一 言行に恥ぢるなりしか  
一 氣力に缺るなりしか  
一 努力に憾るなりしか  
一 不精は宜るなりしか

## 新医療審議会が発足

医療法施行に基づく厚生省の新医療審議会は六月末に発足したが、同審議会委員に、日本病院会（諸橋芳夫会長）の代表として西能正一郎同病院会常任理事が選ばれた。また、諸橋会長も、全国自治体病院協会代表として再度、同審議会委員に選出された。

## 諸橋会長と西能常任理事

日本病院会と西能常任理事のアベック委員で、よりよき医療計画策定のための公・私病院協力体制の確立への主張が強力に推し進められることになり、理事会の席上でも諸橋会長が、この旨の意見表明を行なった。



西能 委員



諸橋 委員

日本病院会としては、諸橋会長と、西能常任理事のアベック委員で、よりよき医療計画策定のための公・私病院協力体制の確立への主張が強力に推し進められることになり、理事会の席上でも諸橋会長が、この旨の意見表明を行なった。

同審議会は、都道府県十人以上の組織で、医療、

## 恩師の腕

西能 正一郎

昭和三十三年頃のことです。当時、私は母校の弘前十年近くも前のこと。当時、私は母校の弘前大学医学部で整形外科の講師を勤めていました。同時に医局長も兼任しておりましたので、しばしば教室にお伺いして、主任教授の諸富武文先生と打ち合わせをする立場でありました。

## 弟子たちが引継ぎ、未来永劫に

テレビのひばり対医者、この差を考えてみれば……

今でも医学部の教授とありますが、当時は、それは今とは比較にならない偉さでありまして、医局長にとつては神様以上のものであります。私も教室に伺うときは最大限に緊張して、お部屋に入る前から、出る時のことを考えているような始末でした。

そんなある日、何かの用事を済ませて退室しようとしたときに、先生はいつもの厳しお顔が緩んで、「君、ちよつと」と呼び止められました。気がついてみると、当時では珍しかったテレビが据えられて、丁度少女歌手として売り出し始め

「日本病院会の常任理事として、また同会の中審議会の委員にご推薦いただいたものと理解しております。日本の病院は、

「美空ひばりが歌っているところでした。先生は、これを聞いてごらん、こんな小娘が今一度に何百万という人達と取引をしている。これに較べると、われわれ医師の仕事は、どんなに名医になっても、一回にたった一人の人としか対応出来ないよ。この差をなんとか考えてみねばならないよ」といわれました。

いつも恐いばかりの先生の突然のおはなしで、先生が何を論そうとなされたのか理解出来ないままに、「はい、その通りであります」ぐらいのことを申し療室で手術場で、先生から教わったことを、あた

美空ひばりの歌は、彼女が引退すればレコードなどでしか聞けません。諸富教授の腕は先生が引退されても、沢山の弟子達が引き継ぎ伝えて未来永劫に地球上から消えることはないでしょう。そして、人間愛、生命の尊さは永遠に消えることはないでしょう。

そう考えてみると、あのとき、先生のおっしゃろうとしたことは少し違っているのではないかと



住 栄作氏

医療法人、財団五省会西能病院理事、住栄作氏は、七月六日の衆

## 社会福祉に力を

参同日選挙・衆院選富山一区で九万九千四百二十票を獲得、県史上最高票を挙げ、会づくりにすまぬ。社福に力を注ぎたい。社福には堅固な財政基盤を確立したい」と語る。

## 中小病院の活力削減の恐れも

目を光らせて主張する 西能委員の話

「日本病院会の常任理事として、また同会の中審議会の委員にご推薦いただいたものと理解しております。日本の病院は、

中小病院が基盤になるといふ考えからであり、

今後の委員会の主目的は、地域医療計画、中でも地域における病院病床敷に枠をはめようということにありま。私的の中小病院の活力を削減するおそれもあることについては、目を光らせて主張せねばなりません。おくれせながら勉強して少しでもお役に立ちたいと思っております」。

## あすなろ

やるか、やめるか、進むか、退くか。右をとるか、左をとるか。人は長い人生の節目節目で、いやおうなく決断を迫られる時がある。進学、就職、恋愛、結婚、妊娠、新築、転居、転職、趣味……。その時の選択がその後の運命を大きく左右することが多い。『あすなろ』は生活が苦しくてね、あなたを生もうかどうか迷って……などという母親の告白を、成人後は笑い話で聞いているが、実はこの世に存在するかどうかの重大な岐路に立っていったわけだ。しかし、選択してしまつた以上、その運命をどう考えるか。人生が変わってくる。先日、悩んだ揚げ句に三人目に生んだ子が障害児だった母親の手記を読んだ。彼女が長男と長女にいいさせた言葉が立派で胸が熱くなった。『この赤ちゃんに空でケガをしたお星さんだつたの。神様がこの家ならきつとかわいがつてくれると思われて、このおうちを選ばれたの。だからみんな大事にかわいがつてあげようね』自分にいきかす言葉でもあったらどう。今、五歳半のその子の無心の笑顔にみんな辛いことを忘れ「わが家の太陽」にしているという。選択は常に最善とは限らない。しかし、これを常に好運な幸せに変えていくのは人間の英知と勇気ではないだろうか。

## 暑中お見舞い申し上げます

昭和61年盛夏

医療法人 財団五省会

- |    |       |    |      |    |       |    |      |    |       |    |      |    |       |    |       |    |        |    |      |    |       |    |      |    |       |    |       |    |       |    |       |    |      |    |       |     |          |
|----|-------|----|------|----|-------|----|------|----|-------|----|------|----|-------|----|-------|----|--------|----|------|----|-------|----|------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|------|----|-------|-----|----------|
| 理事 | 西能正一郎 | 理事 | 住 栄作 | 理事 | 米田 寿吉 | 理事 | 岸口 繁 | 理事 | 西能 綾子 | 理事 | 石川 実 | 理事 | 菅田 英二 | 理事 | 稲垣 忠一 | 理事 | 尾山 征一郎 | 理事 | 重松 尚 | 理事 | 神沢 幹夫 | 理事 | 西能 孜 | 理事 | 坂本 重一 | 理事 | 土田 亮一 | 理事 | 豊田 文一 | 理事 | 古沢 富美 | 理事 | 堀 政夫 | 理事 | 松井元太郎 | 評議員 | 西能病院職員一同 |
|----|-------|----|------|----|-------|----|------|----|-------|----|------|----|-------|----|-------|----|--------|----|------|----|-------|----|------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|------|----|-------|-----|----------|



# 大地を踏む

富山市五福四区  
長谷川 信 子さん (五六)



ワッペン作りに精を出す信子さん

「ガチャ、ガチャ…」  
四・五坪のプレハブのなか、連結されたミシン十台が勢よく回転している。目を見張っていると、信子さんが「珍しいでしょ。これは、ジャガードミシンといつて、子供たちのワッペンやアップリケの刺しゅうを作るんですよ」と教えてくれた。  
そして、「かわいいでしょう」と、ソウの郵便屋さん、ビヨロのスケート」など、いろいろのサンプルをみせてくれる。騒音も、そんなに気にならない。趣味と実益をかねたひとときである。五年前からやっているという。

## かわいいワッペンづくり

信子さんは建築技士(会社勤め)のご主人と二人暮らし。たった一人の長男(三十歳、会社員)は別居している。一人ぼ

## 21世紀に生きる

つちの昼間はミシンが相手である。花も大好きだ。「お友だちが集まって世間話をしたり、気がむけば、街にでかけて、お茶を飲んだり、食事をしたり」。陶芸とか絵画の教室、展覧会にもでかけて、結構楽しんでます」  
五月の連休には愛車に「ご主人を乗せて糸魚川の山の温泉へいって来た。入院中に親しくなった糸魚川の友だちが紹介してくれたものだ。つい先日は、新鮮な魚を求めて友だち九人と車で氷見へ。『くるまエビがはねかえって』と。  
愛車は「ゲタがわりです」とおっしゃる。そんな信子さんに、待ち望んでいることが一つある。それは、長男が、独身貴族から足を洗ってお嫁さんをもらってくれることだ。  
「一日も早く、孫の顔がみたいですね」

## 西能病院から10人が参加

### 横浜市で第36回日本病院学会

「21世紀に生きる」をテーマにした第三十六回日本病院学会(学会長・小野肇神奈川県病院協会会長)は、七月十七日から三日間にわたり、横浜市の神奈川県立県民ホールをメイン会場として開かれた。一般演題二百十の座長をつとめた。  
西能病院から発表された五演題は、つぎのとおり。カッコ内は演者。  
△「加齢に伴う肺の変化」(高田哲郎) 朱実  
△「夫婦を同じ病室に収容した経験」(小藤美子) △「石膏ギブスの重量感の軽減について」(田畑朱実)  
△「喜ばれる食事への試み」(宮原佳子) △「身体障害者手帳申請における医療ソーシャルワーカーの役割」(高村美和子)  
△「夫婦を同じ病室に収容した経験」(小藤美子) △「石膏ギブスの重量感の軽減について」(田畑朱実)

## 各位のご指導を受けて

### 西能院長が広報委員長に

これまで日本病院会広報委員会の委員をしてきた西能院長(同会常任理事)が、このたび広報委員長に委嘱された。西能院長は「名誉ある日本病院会の広報の任務を全うしたいものと念じている」と、次のように語っている。  
「時あたかも、今日ほど強力な病院団体の出現が渴望される時はありません。日本病院会の正しい認識、評価の中から、同志の増加を図らねばなりません。西能院長は、同病

## 上野夫妻が別府の松下さんを訪問



上野夫妻と一緒に「ハイ、ポーズ」の松下さん

五月二日、予定より早く、電話もなく、突然、自分の居室の廊下でばつたり。  
「ハイ、ポーズ」の松下さん  
「ハイ、ポーズ」の松下さん  
「ハイ、ポーズ」の松下さん

「時あたかも、今日ほど強力な病院団体の出現が渴望される時はありません。日本病院会の正しい認識、評価の中から、同志の増加を図らねばなりません。西能院長は、同病

## 美しいものが 見えてきた

松下 英 勝

富山から電話がありました。野だけどさあ、ほれ、西(未だ相手は誰だか、判能病院で一緒だったろう、断できません) オレ、五月の連休にさあ、九州へ行こうと思つとんがだけどさあ、マツちゃん、連休に、そこにおられるけん、おられるがな、家内と行くちやあー」  
「あー、マツちゃんけんえ」  
「ハイ、松下下ですが」  
「オレ、上

「マツちゃんノ」旅の疲れも見せず、ニコニコ顔で上野夫妻出現。びっくりしました。  
「記念撮影。彼のカメラは自動シャッターがついており、(でも三脚がない)窓わくを台にして、「ハイ、ポーズ」。

「時あたかも、今日ほど強力な病院団体の出現が渴望される時はありません。日本病院会の正しい認識、評価の中から、同志の増加を図らねばなりません。西能院長は、同病

## 医療法人 西能病院の診療体制

一般受付時間 (日曜・祭日は休診)

● 年中無休・24時間受付の診療体制を敷いております。 ● 救急車(2台)は、要請により出動致します。

診療科目	曜日	午前	午後
整形外科	月～土	8:30～12:00	16:00～19:00
リハビリテーション科	月～土	8:30～12:00	13:30～19:00
内科	月～土	8:30～12:00	病棟回診火・夜診(16:00～19:00)
泌尿器科外来	毎月第2、第4土曜日		13:30～17:00
神経内外科	毎週木曜日		14:00～17:00
形成外科	毎月1回	8:30～12:00	(診察日は受付でおたずねください)